

米国人における柔道に関する意識調査

猪 木 原 孝 二

岡山理科大学, 健康管理センター

(昭和62年9月30日 受理)

I. 序 論

日本古来の武道の1つである柔道が、オリンピックの正式種目に採用されたのは、1964年第18回の東京大会からである。^{2,6)}

その後、日本の柔道が諸外国に普及し、いわゆる日本古来の武道から競技的な要素を備えた競技柔道へ発展し、現在では地域住民の娯楽としてのエクササイズ柔道まで浸透しつつある。その根底には、外国人にいかなる柔道意識が存在するのであろうか。私は1987年1月より7月までの6ヶ月間、米国、オハイオ州デイトン市及びニューヨーク州ニューヨーク市で、インストラクターとして米国人に日本柔道を指導し、直接的に感じた彼等の意識及び調査の結果を報告する。

II. 調 査 方 法

1. 調査用紙

調査は、質問形式によって実施した。

調査用紙は、表1のとおりである。

2. 調査地域

オハイオ州デイトン市

ニューヨーク州ニューヨーク市

III. 調 査 結 果

1. 回答者

回答者は、表2に示すとおりである。

2. 柔道に対する認識度

日本の武道という言葉について知っているとしたのが、32名中男子が19名女子が2名であった。残りの男子6名女子5名が、武道という言葉については知らなかった。さ

表1 調査用紙

QUESTIONNAIRE

Name _____

Male or Female _____

Age _____

1. Where were you born? (Please indicate your birthplace and the place where you grew up.)
2. Do you know the Japanese word Budo? (It is equivalent to a Japanese martial art in English).
YES _____ NO _____
3. What do you think about Budo? What ideas do you have about Budo?
4. Do you know the Japanese sport of Judo? It is one of the Japanese martial arts.)
YES _____ NO _____
5. Where did you get your knowledge about Judo?
6. Have you ever seen any Judo matches?
YES _____ NO _____
7. Did you ever wish to take lessons or practice Judo?
YES _____ NO _____
8. Have you ever had any Judo practices?
YES _____ NO _____
9. Where could you practice Judo?
10. Do you have any interest in Judo?
YES _____ NO _____
11. What do you think about Judo?
12. What ideas do you have about Judo?
13. Why do you want to practice Judo?
14. What purpose(s) do you hope to achieve through Judo practices?
15. Please write freely and frankly what you think about Judo.
16. Do you know differences between Judo and other sports? If so, please explain.
17. Are you interested in Japanese Martial Arts other than Judo?
What other kinds of Japanese Martial Arts would you be interested in learning and - what others do you already know?

らに、日本柔道について質問したところ、武道を知っていると答えた男子19名及び女子2名は、全員柔道を知っていると答えた。尚、武道を知らないと答えた男子6名のうち、4名が知っている、2名が知らない、女子5名のうち5名が知っていると答えた。

3. 柔道に対する考え方

柔道に対する個人的な考え方を調査結果から4つに区分した。

自己防衛の手段をA、肉体的、精神的トレーニングをB、スポーツとしてのC、ノーコメントをDとした。その結果、柔道を知っていると答えた男子については、A 2名、B

表2 調査人数

年 齢	性 別		計
	男 子	女 子	
10才代	3名	2名	5名
20才代	10名	4名	14名
30才代	11名	0名	11名
40才代	1名	1名	2名
会 計	25名	7名	32名

4名、C12名、D 5名、知らないと答えた者は、C 1名、D 1名であった。柔道を知っていると答えた女子については、B 2名、C 2名、D 2名であった。

4. 柔道の目的

個人の柔道の目的を調査結果から5つに区分した。肉体的、精神的、忍耐力の養成をA、技術、体力の向上をB、競技会での優勝をC、日本武道に対する知識の吸収をD、ノーコメントをEとした。その結果、柔道を知っていると答えた男子については、A 9名、B 5名、C 3名、D 2名、E 4名であった。知らないと答えた者は、A 1名、E 1名であった。柔道を知っていると答えた女子については、A 3名、C 2名、E 2名であった。

IV. 考 察

本調査は、米国地域における柔道の中心地ともいわれるニューヨーク州ニューヨーク市及び、小都市であるオハイオ州デイトン市において、柔道を実施している一般市民に日本柔道に対する意識調査を行なったものである。それは日本古来の柔道が競技化され、

表3 柔道の知識を得た所

	男子	女子	計
柔道クラブ	13名	5名	18名
学 校	6名	1名	7名
両 親	0名	1名	1名
柔道の大会で	2名	0名	2名
ノーコメント	4名	0名	4名
合 計	25名	7名	32名

表4 柔道の体験について

	男子		女子		合計
	YES	NO	YES	NO	
試合を見学したことがあるか	21名	4名	7名	0名	32名
授業受けたり練習をしたいか	25名	0名	7名	0名	32名
練習を実際行った事があるか	22名	7名	7名	0名	32名

ゆがんだかたちで外国人に紹介され、理解されている傾向がうかがえるからである。なぜなら、日本柔道が外国人の知識として忍者及び武術に理解されている傾向がみられるからである。そこで日本の武道と柔道についての認識度について調べたところ、男子と女子とでは圧倒的に男子の方がよく知っていた。それは、日本古来の武道の精神⁷⁾に対する理解度の相違からくるものと言えよう。そこで柔道について質問したところ、男子の2名を除くすべての者が知っていた。しかし、柔道に対する考え方についてノーコメントの回答が得られ、さほど本質的な日本古来の武道の中での柔道の精神^{1,3,6)}について理解されているとは考えられない。(表3, 4, 5)また回答事項において、スポーツとし

表5 柔道の練習場所

	男子	女子	計
柔道クラブ	17名	6名	23名
スポーツクラブ	2名	1名	3名
学 校	2名	0名	2名
U.S. エアホース	1名	0名	1名
ノーコメント	3名	0名	3名
合 計	25名	7名	32名

てとらえている人々が多くみられるという事は、いわゆる日本古来の武道精神⁷⁾が、外国人には伝承されていないという事をうかがう事が出来るのではないか。

つまり、国際選手権及びオリンピック^{2,6)}は、スポーツとしての競技柔道としてのものであり、外国人意識の中での柔道は、あくまでスポーツ柔道であろう。

さらに、個人の柔道を行なう目的について調べたところ、圧倒的に肉体及び精神力、体力の養成という事であり、この点では、武道の精神⁷⁾である精神的な要素、忍耐力の養成、その他、嘉納治五郎先生が言われた、「精力善用自他共栄^{4,5)}」要素が受け継がれているものと考えられる節もみられる。従って、今回の米国における柔道の意識調査は、本来の柔道の理解度と実施者側の目的意識との相違がみられ、日本古来の柔道精神の認識度とは異なったものと言える。さらに、地域を拡充し調査を継続する必要があると思われる。

V. 結 語

米国人における柔道に関する意識調査を行なったところ、次の事が判明した。

1. 日本古来の武道としての柔道に関する意識は、外国人には理解されていないようであった。
2. 柔道に対する認識度は、競技柔道としての理解度が強く、いわゆるスポーツ柔道としての認識が成されているようであった。
3. 個々の柔道を行なう目的は、肉体及び精神修養が大半を占め、そこには日本古来の

柔道に関する精神が教授されている傾向もうかがえた。

4. 以上の結果、外国人特に米国地域における柔道に関する意識は、スポーツ柔道としての意識が強くみられた。

参 考 文 献

- 1) 猪熊 功：柔道，講談社，1979，pp.33-34
- 2) 老松 信一：世界大百科事典，平凡社，1981，pp.325
- 3) 川村 禎三：柔道，ベースボールマガジン社，1987，pp.16-17
- 4) 本村 清人：柔道，一橋出版KK，1987，pp.4-5
- 5) 小谷 澄之：柔道五教，成美堂出版，1982，pp.10-11
- 6) 醍醐 敏郎：柔道教室，大修館書店，1982，pp.9, pp.11
- 7) 波島 秀行：武道を志す人のために，スポーツライフ社，1982，pp.13-20

Survey on the knowledge of Judo among American people

Koji INOKIHARA

Health Care Center Okayama University of Science

1-1 Ridai-cho Okayama, 700 JAPAN

(Received September 30, 1987)

As a result of the survey of the knowledge of Judo, several things stated below were found. The areas of the survey are New York, New York and Dayton, Ohio in the United States. Total participation of this survey is 25 males and 7 females.

1. Judo as one of the traditional Japanese martial arts (Budo) is not well understood.
2. The Judo which was understood among the respondents is competitive one.
3. The reason they play Judo is to develop both mental and physical attitude.
4. Taking the above three results into consideration, the way that American people understand Judo is only "competitive Judo".